



広げるのではなく掘り下げる

文章を書く力を高めるにあたり、小学生ではまず次のことに取り組むとよいです。

「長く書く」

とてもシンプルなことですが、長く書くことは文章力を高める上で極めて効果の高い方法です。

文の量を増やすためには、まずはたくさんの言葉を自分の中から出さなくてはなりません。

そして、出しているうちに、色々な気づきが生まれます。

「この気持ちは、なんていう言葉で表現したらいいだろう」

「同じような文章が続くと、なんだかつまらなく感じるな」

「どこの場面から、どんな風書き始めたらいいんだろう」

だから、長く書けることはそれだけで立派な一つの文章力なのです。

量質転化という言葉もある通り、まずは上手でなくても巧みな表現が使えていなくてもいいので、多くの量を通して力が高まっていきます。

これが、多くの作文指導場面で間違いがちなポイントです。

最初から「上手に長く書かせよう」としてしまうのです。

「ここの表現が間違っているよ」「ここの漢字が違うよ」「文章はこうやってつながないと」などと次々と指摘や指導が入り、そしてたくさんの「作文嫌い」を生み出していくわけです。

「長く書く」こと一つとっても、指導のステップは細かくたくさんあります。

どんなスタイルでもいいですが、例えば「10分で400字」を書ききるこ

とができれば、小学生としては間違いなく合格点といえるでしょう。

大人でも、この基準で文章を書ききれない人も実は結構多いものです。

そして、この長く書く力が一定量ついてきたら、次のステップへと進みます。

それは、

1つのことを詳しく書く

という段階です。

特に制限なく長く書いていい場合、多くの子は出来事を「羅列」します。

今日は、遠足にいきました。

最初に、みんなでテクテク歩きました。歩いている時に、いろいろなお店を見つけました。

それから、途中にある公園で休憩をしました。ぼくは、チョコレートを食べました。

それから、またみんなで歩きました。少しずつ足が疲れてきて、歩くのが大変になってきました。みんなで「頑張ろうね」とか「あと少しだよ」とか、声を掛け合いながら歩きました。

2時間くらいあるいてから、やっと目的地につきました。たくさん汗をかいたけど、最後まで歩いて嬉しかったです。

そして、みんなで敷物を敷いてご飯を食べました。今日のお弁当の中身はおにぎりとお揚げと卵焼きでした。食べ終わった後は、今日のために買ってきたお菓子を食べてました。僕のお気に入り、なんとといっても「コアラのマーチ」です。

お弁当を食べてお腹いっぱいになったあとは、みんなで鬼ごっこをして遊びました。疲れていたはずなのに、遊んでいると足がすいすいと動きました。とても楽しい遠足でした。

これで、400文字ちょっとです。

読んでわかる通り、これは遠足での出来事を羅列しています。

悪いわけではありませんが、ここまでの分量が書けるようになったならば、次なる課題に挑戦する時機が来ていると言えます。

そこで、「一つのことを詳しく書く」ことにチャレンジするのです。

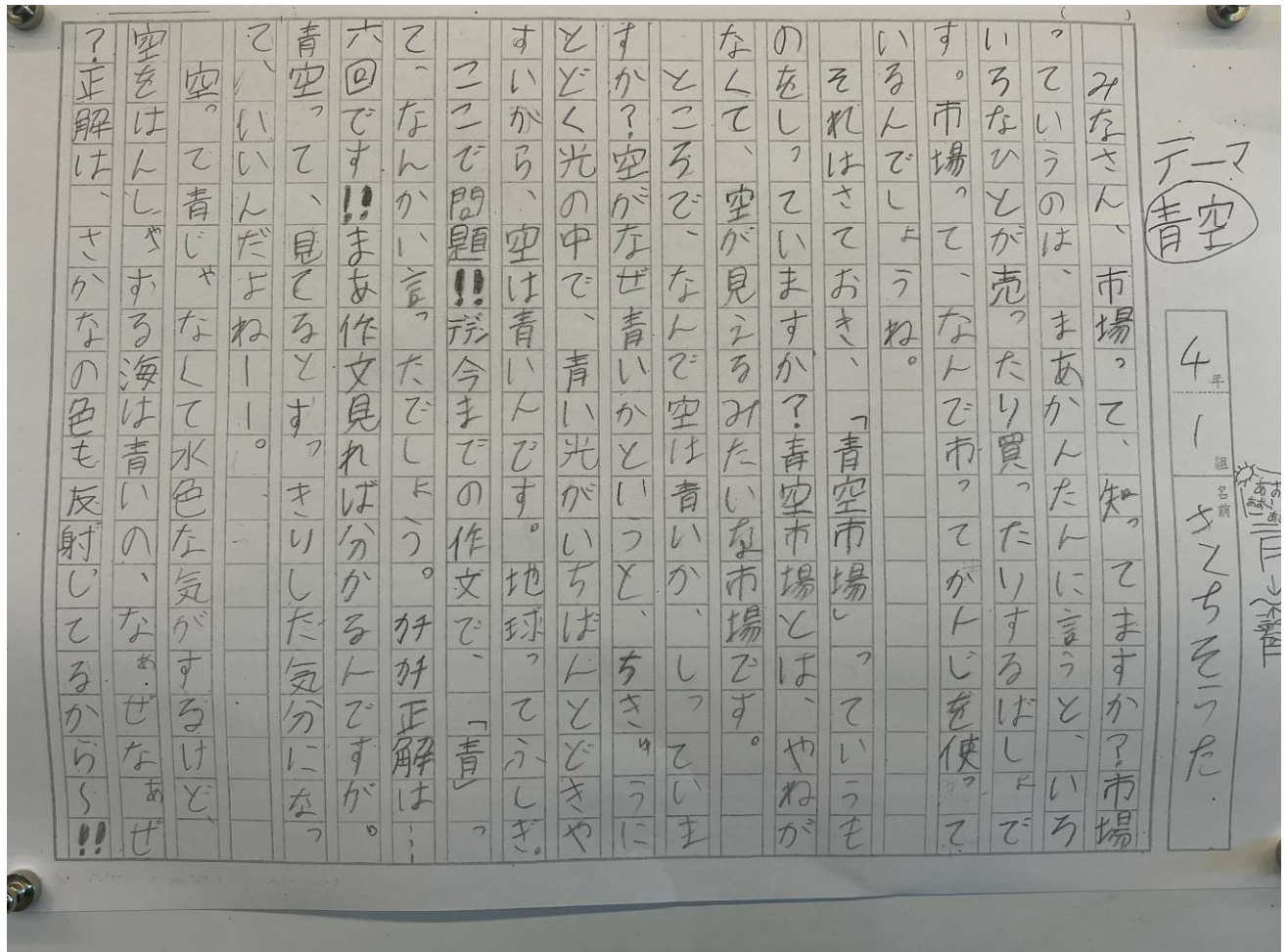
この文章ならば、例えば「休憩時に食べたチョコレート」のことだけで400文字を書くような練習です。

こうすることで、「広げる」ところから「掘り下げる」段階へと、ステップ

アップがなされていきます。

例えば、先日、「青空」というワンテーマでどれだけ作文が書けるかチャレンジしてみました。

菊地君は、次の作文を書きあげました。



見事に、「青空」のことだけで書ききっています。

そして、書き出しには「問う」という以前にキャッチコピーの授業で教えたテクニックが自然と使われています。

さらに、「青空」をただの「青い空」としてとらえるのではなく、青空市場や青空教室のような、「やねがない」という意味での使い方にスポットを当てた点も面白いです。

何より、文章を書くことを楽しんでいることが、作文全体から伝わってきます。

ここまで来れば、もう「書くこと」については「自走モード」に入る準備が整ったと言えるでしょう。

この上で、さらにレトリックの使い方や、細かい表記上のテクニックなど、上級編の内容を学んでいけばよいのです。



長く書けるようになったら、一つのことを詳しく書いてみる。
 シンプルですが、とても大切な作文指導のステップです。
 自分の力に合わせた課題に、チャレンジしていきましょう。

☆ ↓ 読者ページはこちらから ↓ ☆ ご意見ご感想など気軽にお寄せください

<https://docs.google.com/forms/d/1qqf4cPLcjpcWaimWdu-6IFM73JahODYK4ROldg7jLxM/edit>

